

平成 17 年 4 月 1 日

各 位

株式会社 三井住友銀行

平成 17 年度新入社員入行式頭取訓辞要旨

本日、三井住友銀行頭取 西川 善文 は、平成 17 年度新入社員入行式において、下記要旨の訓辞を述べました。

記

1. 昨年度を「トップバンクに向けた基礎固めの総仕上げを行うと同時に、トップバンクの地位確立に向けた大攻勢を開始する年」と位置付け、不良債権問題の最終決着に向けたバランスシートのクリーンナップとビジネスボリュームの拡大を通じた収益基盤の抜本的強化に取り組んできた。不良債権への引当強化や含み損処理を一段と踏み込んで実施した結果、赤字決算を余儀なくされたが、これは、将来の様々なリスクを先取りした結果で、今年度以降、不良債権処理を確実に平年度ベースに乗せるためのものである。

一方、戦略ビジネスにおける更なる攻勢として、中堅・中小企業向け貸出業務の抜本的強化や、投資銀行業務の強化、個人分野では、コンサルティング業務やコンシューマーファイナンス業務を中心に、絶えずビジネスモデルのレベルアップを図っている。更に国際業務では、中国を中心としたアジア関連業務の一段の強化に努めてきた。こういった重点戦略分野への積極的な経営資源の投入を柱に、収益力の強化に取り組み、着実に成果を上げた結果、「最高の信頼を得るトップバンクの実現」に向けて、確かな歩みを進めている。これからも克服すべき経営課題に積極的かつスピーディーに対応し、当行に寄せられる、お客さまや株主の皆さまの大きな期待に応えたい。

2. 新入社員に期待すること

(1) 大きな夢を持ち続け、その実現に向けて努力すること

三井住友銀行という大きな舞台のスタートラインの前には、無限の可能性が広がっている。絶対に実現させるという気概のもと、大きな『夢』を抱き続け、その実現に向けて、着実に日々為すべきことを積み上げていき、将来、必ずやその夢を実現させて欲しい。

(2) お客さまに「感動」を提供できるバンカーとして、常に進化し続けること

進化していく力は、一朝一夕に培われるものでなく、常日頃、あらゆることに興味を持ち「次はこうしよう」という発想を日々蓄え、機会を捉えて実践していくことが大切。自らの手で新しい金融ビジネスを築く気概を持ち、サービス業の原点に立ち返り、常にお客さまや日々の暮らしの中から多くのことを「受信」し、それを柔軟な発想と実行力で最高のサービスとして「発信」し、お客さまに「感動」を提供できる三井住友銀行員として、常に進化し続けて欲しい。

3. 結び

「為さざるなり、能わざるに非ざるなり」という孟子の言葉があるが、「出来ないのは、才能や能力がないからではない。単にやろうとしていないだけだ」という意味である。特にこのような気持ちを持って、何事にも積極的に挑戦し、フレッシュで柔軟な発想と、旺盛な行動力で、これからの三井住友銀行を築き上げていただくとともに、自らも大きく成長して欲しい。

以 上